

令和2年度 学校評価に関わるアンケート集計結果

令和3年 2月 1日
宮城県中新田高等学校

1 アンケート調査期日と回収率

対象者	実施日	回収率
生徒	12月7日(月) 15:40～	100% (309/309人中)
保護者	11月24日(火)～12月7日(月)	98% (302/309人中)
教職員	11月24日(火)～12月7日(月)	100% (32/32人中)

2 結果詳細

- <資料1> 令和2年度 三者(生徒・保護者・教職員)比較グラフ
- <資料2> 令和2年度 学校評価に関わるアンケート集計
- <資料3> 令和2年度 「重要度」「実現度」「ニーズ度」比較
- <資料4> 令和2年度 学校評価報告書
- <資料5> 令和2年度 アンケート自由記述

3 共通項目 結果一覧 (実現度)

(数字は肯定的評価の値 単位 %)

	項目	生徒		保護者		教職員	
		R1	R2	R1	R2	R1	R2
1	進路に応じた教育課程編成	83	86	84	77	77	94
2	意欲を引き出す授業	67	72	74	64	73	88
3	家庭学習の定着	28	39	43	43	40	56
4	充実した朝読書の推進	88	81	66	52	87	69
5	生活指導の方針明確	73	76	79	73	80	91
6	基本的な生活習慣の指導	82	84	81	71	77	75
7	進路目標の明確化	81	83	80	73	80	84
8	進路情報の提供	81	83	73	70	87	88
9	進路ノートを活用	64	66	69	58	53	53
10	教育相談体制	73	82	71	61	100	88
11	部活動が活発	82	88	78	73	77	78
12	部活動の休養日設定	71	75	81	70	73	88
13	生徒会活動が活発	72	77	85	62	70	66
14	有意義な学校行事	69	79	81	67	83	75
15	特色ある学校づくり	73	74	80	64	80	69
16	災害時の避難・連絡	87	90	80	64	97	75
17	学校の情報提供	86	88	86	73	100	84
18	校舎等の施設設備	82	73	65	52	57	72
19	清掃等学習しやすい環境	67	86	67	65	70	88
20	いじめの早期発見	83	69	88	54	93	88
21	PTA・学校行事の連絡	67	82	73	65	90	53
22	学校生活の充実度	67	74	85	77		
	平均	73.9	77.6	75.9	64.9	78.3	77.2

4 共通項目概況

今年度の学校評価に関するアンケートは、宮城県教育委員会から指定されている評価項目(18項目)を自校の教育方針に照らし合わせて検討し、昨年度と同様に22項目について実施した。具体的項目での昨年度と今年度の経年比較を実施した。

(1) 生徒アンケート

肯定的評価の平均は77.6%(前年比+3.7%)と、前年度と比べてやや増えており、肯定的評価が70%以上の項目は、22項目中19項目(前年比+4)であった。

中でも「進路に応じた教育課程の編成」、「充実した朝読書の推進」、「基本的な生活習慣の指導」、「進路目標の明確化」、「進路情報の提供」、「教育相談体制」、「部活動が活発」、「災害時の避難・連絡」、「学校の情報提供」、「清掃等学習しやすい環境」、「PTA・学校行事の連絡」の11項目(前年比+1)で肯定的評価80%を超えている。また、肯定的評価が65%未満は「家庭学習の定着」(前年比+11%)の1項目のみである。

なお、前年度と比べて大きく向上した項目は、「家庭学習の定着」(+11%)、「教育相談体制」(+9%)、「有意義な学校行事」(+10%)、「清掃等学習しやすい環境」(+19%)、「PTA・学校行事の連絡」(+15%)、「学校生活の充実度」(+7%)であり、下降した項目は、「充実した朝読書の推進」(-7%)、「校舎等の施設整備」(-9%)、「いじめの早期発見」(-14%)、であった。

(2) 保護者アンケート

肯定的評価の平均は64.9%(前年比-11.0%)と大きく数値が下がった。肯定的評価が70%以上の項目は9項目(前年比-8)となった。80%を超えた項目は無し(前年度11項目)。また、肯定的評価が65%未満は「意欲を引き出す授業」(前年比-10%)、「家庭学習の定着」(前年比±0%)、「充実した朝読書の推進」(前年比-14%)、「進路ノートの活用」(前年比-11%)、「教育相談体制」(前年比-10%)、「生徒会活動が活発」(前年比-23%)、「特色ある学校づくり」(前年比-16%)、「災害時の避難・連絡」(前年比-16%)、「校舎等の施設整備」(前年比-13%)、「いじめの早期発見」(前年比-34%)の10項目(前年比+9)である。

(3) 教職員アンケート

肯定的評価の平均は77.2%(前年比-1.1)であった。肯定的評価が70%以上の項目は、21項目中15項目(前年比-3)であった。その中でも「進路に応じた教育課程編成」、「意欲を引き出す授業」、「生活指導の方針明確」、「進路情報の提供」、「教育相談体制」、「部活動の休養日設定」、「清掃等学習しやすい環境」、「いじめの早期発見」の8項目が85%を超えた。

また、肯定的評価が70%未満の項目は、6項目(前年比+3)であり、「家庭学習の定着」、「充実した朝読書の推進」、「進路ノートの活用」、「生徒会活動が活発」、「特色ある学校づくり」、「PTA・学校行事の連絡」である。

5 ニーズ度算出からのまとめ

(1) アンケートの実施について

今年度のアンケートも、昨年同様にそれぞれの項目に対して実現度だけでなく重要度も回答してもらった。重要度と実現度に関してはアンケート結果に対して次のような点数化を行い、各項目の「重要度」「実現度」「ニーズ度」を算出した。

重要度	重要である	やや重要である	あまり重要でない	重要でない
点数	7	5	3	1
点数の和 ÷ 有効回答数 = 重要度				
実現度	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
点数	7	5	3	1

点数の和 ÷ 有効回答数 = 実現度 重要度 × (8 - 実現度) = ニーズ度
「ニーズ度」は、重要度が高くて実現度が低いと高くなる。「ニーズ度」が高い項目は、
学校の課題と見なすことが出来る。

(2) 「生徒」「保護者」「教職員」アンケートの三者比較概要 ※ () 内は令和元年度の値

	重要度平均値	実現度平均値	ニーズ度平均値
生徒	6.02 (6.07)	4.81 (4.71)	19.15 (19.90)
保護者	5.96 (6.07)	4.09 (4.81)	23.24 (19.34)
教職員	5.94 (6.07)	4.81 (4.96)	18.89 (18.36)

上記の表から、今年度のアンケート結果を見ると、生徒と保護者・教職員による重要度平均値は生徒・保護者・教職員の順であるのに対して、実現度平均値は教職員・生徒が同数、次いで保護者の順である。ニーズ度が三者の中で最も高いのは保護者であり、次に生徒・教職員の順となった。そこで、今回のアンケート結果から、三者のニーズ度の数値の高い項目から課題の割り出しを試みた。

(3) 「ニーズ度」から見た注意すべき項目(上位7項目)

<生徒>		質問項目	重要度	実現度	ニーズ度	
					R1年度	R2年度
3		私は、毎日、予習・復習等の家庭学習に取り組んでいる。	5.47	3.38	27.40	25.26
20		学校は、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる。	6.26	4.39	23.72	22.58
2		学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。	6.19	4.54	22.63	21.43
12		部活動の休養日は、生徒・顧問の負担軽減のために適切に設定されている。	6.26	4.63	21.74	21.10
18		校舎やグラウンドなどの施設や設備は整理されている。	6.12	4.58	22.06	20.90
15		学校は、地域や伝統に根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。	5.79	4.46	19.68	20.50
22		私は中新田高校に入学してよかった。(学校生活は充実している。)	5.97	4.59	22.23	20.35
平均			6.01	4.37	22.78	21.73

<保護者>		質問項目	重要度	実現度	ニーズ度	
					R1年度	R2年度
20		学校は、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる。	6.37	3.24	22.08	30.31
3		お子さんは、毎日、家庭学習に取り組んでいる。	6.05	3.56	25.34	26.88
18		校舎やグラウンドなどの施設や設備は整理されている。	6.12	3.47	21.55	26.49
9		「進路ノート」を活用しLHRや総合の時間を使って効果的な進路指導が行われている。	5.78	3.48	20.50	26.15
10		教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができています。	6.04	3.82	20.78	25.27
2		学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。	6.28	4.00	21.49	25.12
9		校舎内外をきれいにし、設備を大事に使っている。	5.95	3.80	17.68	24.97
平均			6.08	3.62	21.34	26.46

<教職員>		質問項目	重要度	実現度	ニーズ度	
					R1年度	R2年度
3		生徒は毎日宿題、予習復習等の家庭学習に取り組んでいる。	5.75	4.16	23.89	22.10
21		PTA活動や学校行事などの連絡事項を保護者へいつも伝えている。	5.25	3.94	18.84	21.33
18		校舎やグラウンドなどの施設や設備は整理されている。	6.00	4.53	22.21	20.81
9		「進路ノート」を活用しLHRや総合の時間を使って効果的な進路指導が行われている。	5.44	4.19	21.24	20.73
6		挨拶やマナーなどの基本手生活習慣の確立に関する指導が行われている。	6.31	4.78	22.00	20.32
13		生徒会活動は活発に行われている。	5.56	4.47	19.79	19.64
16		災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている。	6.16	4.81	15.40	19.62
平均			5.78	4.41	20.48	20.65

- ・「家庭学習の定着」は、5年連続して三者ともニーズ度が高い結果であった。学習の必要性や大切さは感じているものの、家庭では「定着していない」または「定着している様子が感じられない」状況がうかがえる。保護者のニーズ度が前年より高くなっていることに対して、生徒・教職員のニーズ度は下がっている。教職員は計画的に課題を与え、生徒の意識を高める手立てを講じながら、保護者の理解が得られる工夫をしていく必要がある。

- ・「校舎やグラウンドなどの施設や設備」についても、昨年に続き三者とも高い値となっている。毎年要望の多いエアコン設置については、令和3年度、各学級の教室に設置することが決定した。今後は設計や工事の日程等詳細を確認し、整備を進める状況である。また、校舎各所で老朽化が進んでいるが、不具合等へは随時対応すると同時に県へ予算措置を要求し、解決を図っている。また、昨年度、台風の影響で使用できない状況が続いたグラウンドの整備については、倒れたネットや流入した土砂の撤去を終え、使用できる状態まで回復したが、今後も段階的に整備を進めていく予定である。
- ・「いじめの早期発見」については、生徒・保護者の両方で数値が高くなっており、生徒が安心して学校生活を過ごせるために、対応が欠かせない項目である。今年度もいじめに関するアンケートを実施し、その内容によっていじめの兆候が見つかり、未然に解決した事例があった。また、職員は日々の教育活動の中で生徒を注意深く観察し、いじめの早期発見や防止に取り組んでいる。更に、生徒総会で生徒達が主体的に議題として取り上げるなど、生徒達が自らいじめ防止を図ろうとする動きもあった。しかし、これらの取り組みが生徒全体及び保護者に十分伝わっていないことが、実現度の向上につながらない要因と考えられる。教職員は生徒・保護者のニーズ度が高いことを十分に意識し、継続していじめ防止と早期発見を心がけることに加え、生徒・保護者との一層の共通理解に努めて取り組まなければならない。
- ・「学ぶ意欲を引き出す授業」も、生徒・保護者の両方で高い値となっている。授業づくりは教職員にとって最も重要なことであるとの意識は高いが、実現度が低い数値となっている。今年度はコロナ禍の影響で、課題学習からのスタートとなってしまった影響が考えられる。ICTの活用により、今後も生徒一人ひとりの学びを止めない工夫を重ね、様々な状況に対して柔軟に対応できる学習環境が構築できるよう、引き続き検証を行う必要がある。また、「主体的で対話的な深い学び」をテーマとしてこれまで校内で取り組んできたことについて検証し、更なる改善を図る必要がある。
- ・「進路ノートの活用」については、保護者・教職員の両方で数値が高くなっている。生徒の数値がそれほど高くないのは、進路を意識した生徒を中心にLHRや総合的な学習(探究)の時間等様々な場面で活用しているためだと考えられる。保護者とともに活用できる内容を盛り込むなど改良を加え、より幅広く活用できるものに工夫していく必要がある。
- ・「学校生活の充実」については、上位に位置することは過去少なかったが、今年度も昨年に続いて生徒の数値が高かった。「特色ある学校づくり」についても、生徒の数値が高くなっており、学校生活の中で中新田高校ならではの充実感や、中新田高校生としての有用感などが得られる機会を求めていることがうかがえる。今年度はコロナ禍により各種イベントが中止となったが、今後も地域と連携して、様々な取り組みが必要であると考えられる。

6 考察

共通項目結果及びニーズ度算出結果より、本校が問題意識を持って取り組むべき課題は、次の5点に集約されると考える。

- 1) 生徒の学ぶ意欲を喚起する授業づくりと家庭学習が習慣化する仕掛け
- 2) 校地内の整備と安全・安心に生活できる環境の維持
- 3) 生徒の変容を早期に発見するための積極的生徒指導と保護者との共通理解
- 4) 「進路ノート」の内容検討と効果的な活用方法の工夫
- 5) 積極的な情報発信による1)～4)の学校・保護者間の共通理解

7 自由記述より

保護者からは、「教師の指導の仕方について」、「学校行事の内容や企画について」、「部活動について」、「進路指導について」など大変貴重なご意見をいただいた。

特に「学校からの情報発信について」は、情報不足とのご指摘を多くいただいた。学校ホームページ等を活用して情報提供を実施してきたが、今回の意見をふまえ、学校だよりのほか、学年だよりや進路だより等、学校から配付しているたより等については一斉メールを活用するなど発信方法を工夫し、確実に伝わるよう改善を図る予定である。